

Vol. 160

TIFA会報

外国人に日本語を教えるボランティア団体

Tachikawa International Friendship Association

立川国際友好協会発行

発行責任者 小林 保
編集責任者 宇佐美 浩

ホームページ

<https://tifa-class.net/>TIFAを支える縁の下の力持ち
事務局長に聞く

TIFAの運営を支える事務局長として、資料作成や調整に忙しい日々を送る後藤篤史さん。でも、教室では日本語ボランティアとして、学習者と笑顔で向き合う姿があります。事務局の仕事やその思いに加えて、日本語を教える中で感じたことや、大切にしていることについても語っていただきました。



《いつから TIFAに関わっていて、なぜ事務局長を引き受けることにしたのですか?》

2022年の8月からTIFAの活動に関わり始めました。きっかけは、立川市の市報でTIFAのボランティア募集の記事を見て、「日本語を教えることを通じて自分にも何かできることがあるんじゃないか」と思ったことでした。その後、事務局長を引き受けることになったのは、運営面でも何か役に立ちたいという気持ちがあったからです。教える活動を続けていくためには、それを支える運営の仕事もとても大切だと思っていて、その一端を担えたらと思い、引き受けました。

《事務局長としての主な役割を教えてください》

運営委員会や総会の円滑な運営が主な仕事ですが、私自身が特に意識しているのは、TIFAの運営がどうしているのかを、もっと多くのボランティアの方に知ってもらうことです。そのために、去年からは運営委員会や総会の議事録を全員に共有するようにしました。また、今年度は運営委員会も全ボランティアにお知らせして、誰でも気軽に参加できるようにしています。少しでも多くの方がTIFAの運営に関心を持って、「自分も参加してみようかな」と思ってもらえるようになれば嬉しいです。

《日本語を教えるボランティアとして、大切にしていることは何ですか?》

日本語を教えるうえで私が大切にしているのは、日本語の面白さや豊かさを伝えることです。自分の気持ちを日本語で自由に表現できるんだと感じてもらえるような授業を意識しています。印象に残っているのは、「味わう」という言葉を教えた後、しばらくしてからある学習者が「先日、紅葉を見てきました。日本の紅葉は味わい深いですね」と、自然な文脈でその言葉を使ってくれたことです。しっかり意味を理解し、自分の言葉として使ってくれているんだなと思って、なんだか妙に嬉しくなりました。そういった瞬間に出会うたび、「教えること」は単なる知識の伝達ではなく、学習者の感性や表現の幅を広げる手助けなんだと、改めて感じます。

《TIFAの事務局としての役割をふまえて、今後どんなことを実現していきたいと考えていますか?》

これからのTIFAには、誰でも無理なく、安心して関われる組織づくりが必要だと感じています。多くのボランティアが教室活動だけではなく、運営に関わることもやりがいのある活動なんだろうと思うよう、役職の引き継ぎをスムーズにしたり、情報共有を効率化したりといった体制づくりを進めていきます。

定時総会及び懇親会

5月31日(土)13:30より2025年度の定時総会が行われました。出席者28名、委任状28名、計56名をもって過半数(総数66名)となり、議案はすべて承認されました。各部の内容について、予定の時間を超えて活発な意見交換が交わされました。

総会終了後、懇親会が行われ、和気あいあいとした雰囲気の中、16:30に終了しました。

議案: ① 2024年度活動報告 ② 2024年度決算報告
③ 2025年度活動計画 ④ 2025年度予算案



リレーコラム 交差点

木曜教室 齋藤 實 回顧の一端



葉書にボランティア応募動機を記入して、市役所に提出し当時の中央公民館(柴崎学習館の前身)で、面接当日に即受講生の授業が課せられた。21年前の思い出である。立川国際友好協会という名称に魅せられて海外旅行に有利な事がありそうだという疚しい心があったことも否めない。当時はイラン人が多かった。受講者は国際情勢や国内の政治情勢に左右されて変化する現実がある。思えば多くの受講生と接しながら会の運営にも会長職として10年間関与し、貴重な学習体験を積むことが出来た。当時の会則では、役員選出は選挙方式を採用していたので10年間も担当させて頂く結果となった。

TIFAに参加して、日本の将来ビジョンは多様性の調和による多文化共生社会の推進にありと思い、立川市議会に多文化共生都市宣言の実現について陳情を行い、平成28年12月19日、東京都で最初の実現することが出来た。今後の果実を实らせるためには、市民と行政の一体的努力に待つところが大きい。姉妹都市提携も一都市のみに限定することなく多国籍の自治体間で推進し、人間力を生かした交流活動の拡大が、平和力を高める方策の一つであると信じている。

私のボランティア活動の原点は「自治三訣」にある。「人のお世話にならぬよう、人のお世話をするように、そして報いを求めぬよう」という後藤新平書の額縁が小学校に掲げられていた。この言葉が教育と福祉の道に導いてくれた。戦中・戦後の6年間この額縁を眺めて育った揭示教育の恩恵の賜物と89歳を目前に回想しているこの頃である。

土曜教室 渡部 宣子 ボランティア講師・ふりかえり

私は2020年の11月にTIFAに入会しました。大学卒業後すぐに絵を描く仕事に飛び込み以来30年昼夜問わず黙々と描き続けましたが、50歳代半ばで親の介護も加わりダウン……。これからどうやって生きていこうか、と考えている時に「こういう仕事もあるよ」と弟が教えてくれたのが[日本語教育]でした。

養成学校に入り座学・実習を勉強する中で、「絵が描けるのはこの仕事では便利ですよ」と言っていた

いた事もありましたが、実際の授業で自分で描く余裕は全くなく、やはり重要なのは学習者が知りたい事を的確に伝えるコミュニケーション力かなあ、と感じるようになりました。それと実習で毎回言われた事が「受講者に発話させる事」。これが私にとっては一番ムズカシイ……。家に籠って仕事をしてきた私には、他者とのコミュニケーション自体が高い壁なのです。



それでも、ふとした拍子に話してくれる彼らのお国の話、仕事の話、恋人の話、世界情勢の話、将来の夢などはとても感慨深く刺激的。日本語を教えると同時に私自身も皆さんからとても大きな力をいただいていると思っています。

单身(もしくはご家族と)日本に来てそれぞれの人生というマラソンを走る受講者達に、ほんの短時間でも伴走できることがとても嬉しく感謝しています。

西砂教室 林 梨江 「外国人」として暮らした5年間

私は大学生の頃から国際交流事業に参加するなどして



海外の人と関わってきましたが、夫の仕事の都合で台湾へ転居して、初めて外国人という立場で暮らすという経験をしました。言葉がわからず不安な中、沢山の親切な台湾人に助けてもらい、あっという間に生活上の不便は消えていきました。

思い出に残っているのは市場での出来事です。見たことのない果物について片言の中国語で尋ねると、言葉が通じず説明できないと感じたのか、店員さんはその場で果物を割って食べさせてくれました。その様子を見て、周囲の屋台の人々も「これも食べてみて!」と、次々に試食をさせてくれました。それから市場に行くたびに、子供たちは試食でお腹がいっぱいになっていました。

台湾では外国人という言葉が決して距離を生むものではなく、むしろ会話のきっかけになっていました。もちろん言葉の壁や文化の違いで戸惑うことはありましたが、台湾に暮らして感じたのは、外国人であることが特別でも何でもなく、一つの個性として受け入れられる社会の温かさでした。日本で暮らす外国人の方にも、そんなあたたかさを感じてほしい。日本語教室がその一助になることを願っています。

すわっ祭

5月16日（金）～18日（日）柴崎学習館に於いて「第48回すわっ祭」が開催され、TIFAは作品展の部に3年連続3回目の参加をしました。

展示内容はパネル掲示とスライドショーで「TIFAの活動」や「受講生出身国のお祭り風景」などを紹介しました。



あわせて会報や記念誌などの配布と来場者案内を通じて、PR活動を行いました。パネルの制作や設営作業・来場者案内など、多くの会員の協力により無事に終えることができました。

また、来場者数は88名でした。

☆ 受講生出身国のお祭り風景

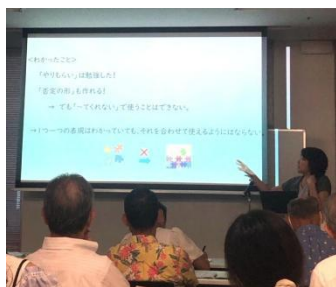
https://tifa-class.net/?page_id=6513

TIFA ホームページ→2025 年活動状況→

すわっ祭、受講生の故郷の写真（木曜、土曜教室）をご覧ください。



土曜教室 ボランティア研修会



2025 年 6 月 21 日（土）、柴崎学習館第1教室にて、今年度第1回目の土曜教室ボランティア研修会が開催されました。講師は一橋大学国際教育交流センター及び大学院言語社会研究科教授

の太田陽子先生で、24名のボランティア会員が参加しました。

今回の研修テーマは【文型から Can-do へ：これからの語学学習サポートを考える】という内容で、具体的にはまず、学習者が日本語を使ってしたい事（目標）を学習支援者と共有し、現状日本語で出来る事、出来ない事、必要な事を認識し、出来る事を積み重ねながら目標に近づいていくという学習法についてでした。研修会約3時間のうち、講義、Q&A、親睦会ともに多数の意見が交わされ、いつにも増して有意義な時間となった印象でした。



グローバルフェスタ 2025

6月22日（日）「立川でひらく!!外国人と楽しむ国際フェス!!」立川青年会議所主催のグローバルフェスタがドーム立川立飛にて開催され、TIFAも参加しました。



会場では、10時から16時の開催時間において、4エリア（中央広場、各国のブースエリア、生活情報ブ



ースエリア、スポーツエリア）に分けてイベントなどが展開されました。中央広場では、縄跳びやフラフープを使ったスポーツ遊び、ダンスパフォーマンスや中

国変面ショーなどが行われ、スポーツエリアでは、小学生中心に、立川アスレティックFCとのフットサルや、立川 DICE と一緒にバスケットボールの試合が行われました。最後はみんなでお神輿を担いで賑やかに終了しました。

七夕まつり

木曜教室

7月3日、11時15分から七夕を行いました。

3階の作業室には、朝早くから教室スタッフによって七夕飾りがされた笹竹が、涼やかに立てられていました。

この日も熱心に日本語の学習に励む中、スタッフから各々に、色とりどりの折り紙で作られた短冊が配られました。ボランティア講師の説明を受けながら、日本語に慣れていない受講生も願い事を短冊に書いて、笹竹に大切に掛けていました。ど



んな願い事が気になるのですが、毎年、木曜教室では、「日本語が上手になりたい」とか、「世界平和を願う」といった短冊が多いようです。そして、「たなばたさま」を合唱し、キラキラとした、みんなの願い事は、お星さまに、しっかりと届いたことでしょう。



土曜教室

7月5日(土) 第1教室と作業室で七夕まつりが開催されました。受講生は、ボランティアと七夕について



学習後、短冊に願い事を書きました。思いがしっかり伝わるよう、ボランティアに日本語を確認してもらっ

ている受講生もいました。日本語がまだ上手に使用せず、英語で短冊に細かく書いている受講生もいました。

その後、順番に前に出て笹竹に短冊を結び、書いた願い事を発表しました。星を散りばめたようなお菓子も配られ、マジックも披露され、ゆかた姿のボランティアや子連れの受講生も参加する中、雷が鳴り、帰る時は土砂降りの



雨で大騒ぎという多彩な七夕のイベントでした。参加者はボランティア 23 人、受講生 24 人、子供 2 人、合計 49 人でした。

木曜教室 ランチパーティー

7月17日(木) 3階作業室でランチパーティーが開催されました。当日は暑いながらも、風があり比較的過ごし易い日となり、ボランティア 16 名、受講生



18 名、合計 34 名が参加しました。今回は例年と違いクジでボランティアと受講生が 6 つのグループに分かれ、各グループで日頃会話が少ないボランティアと受講生が、おにぎり、ランチパック、お菓子を食べながら楽しく歓談する事が出来ました。非常に有意義な一時となりました。

今後も各種イベントを通して、立川市に来て良かったと思える様に交流を図りたいと考えています。写真をご覧ください、楽しい雰囲気が伝われば幸いです。

ホームページ勉強会

7月21日(月祝日) 午前中、ホームページ勉強会を行いました。講師の小林会長含め、7 名(木曜 4 名、

土曜 3 名) が参加しました。それぞれ持参の PC を使って画面を確認しながら、自分で投稿できるよう理解に努めました。その後、紆余曲折がありましたが、使用していなかった言語表示などがなくなり、見やすいホームページになりました。



昭和記念公園 花火大会



2025 年 7 月 26 日(土) 旧柴崎学習館のあった諏訪の森公園へボランティア 1 名と受講生が花火見物に行きました。小さな花火は建物の陰となり、見えずに残念でしたが、それにもか

かわらず多くの人が集まっていました。柴崎学習館に戻る途中に見えた花火はきれいでした。



熊野神社例大祭 お神輿担ぎ

熊野神社例大祭では、高松町自治会から「TIFA 受講生にもお神輿を担いでほしい」とお誘いいただき、今年も参加しました。昨年は 1 日のみでしたが、今年は 8 月 16 日・17 日の 2 日間にわたって行われました。1 日目の参加者



はボランティア 2 名とボランティアの娘さんの計 3 名でした。娘さんはお神輿が大好きで、元気な掛け声をかけながら親子で前後に並んで担ぐ姿が、とても頼もしく見えました。2 日目は幹線道路や住宅街を通過



熊野神社へ向かう賑やかなパレードでした。TIFA からはボランティア 7 名、受講生 7 名、ご家族 3 名の計 17 名が参加。真夏の厳しい暑さの中、2 時間楽しくお神輿を担ぎました。

立川国際友好協会

西砂教室

